

ちよつといひ話

～ 今は幸せかい ～

22年7月1日

7月の新盆、から始まり、月遅れ、旧盆へと続きます。特に思いますのは御先祖が考え実践してみえた家門への^{こだわ}拘り、重み。私がよく耳にしたのは御先祖が守ってきた土地を自分の代で無くす事は出来ないし、守ってしかるべきであると。先祖が代々その時その時代に於いて家門の為に努力精進されて来られた結果が今日に至っているからであると思います。^{もちろん}勿論、^{きび}現実は厳しく、^{りゅうせい}家門の隆盛をみた方、^{すいたい}反対に家門の衰退をみた方もおありでしょう。又、^{けいしょう}名字は継承していても^{つぎはぎ}血統は継ぎ接ぎに成ってしまった家も多くあります。^{かもん}家紋を守っていく事は非常に大変な事です。そこで問われるのが「今は幸せかい」となるのです。**安心、安全な生活が安泰を招き家門の繁栄にもつながっていきます。**^{ふぐう}反対に**不安、不信が不遇を招き家門の衰退につながる**かもしれません。色々結果が出るという事は色々な原因あつての事です。問題の解決にあたり叫ばれるのが原因の^{きゅうめい}究明と成るのです。我々は究明した結果が原因不明と言う事態を招く事を一番恐れるのです。**先祖の方々に報恩、感謝をし、誠を捧げる為に、特別に供養をする月、機会が訪れます。特に丁寧に丁寧に供養をしてあげなくてはならない**と思います。

私は「天道は高く、佛道は深く、人道は正しく、誠道は広く」のスローガンを掲げて進みたいと思っています。この所作がやがて「今は幸せです」と成るに違いないと考えているからです。天台宗の僧、荒了寛上人は著書の中で「^{ほどこ}施しは人を救うが過ぎれば人を駄目にする」と述べてみえます。施しを頂く時に、始めは誠に有りがたいと思うけれども、やがて受け取る事に慣れ感謝を忘れ、不足の念さえ抱く様に成り、ついに身を滅ぼす様な事に成ってしまうと折角の施しが無になり、大変残念であるとの訓戒をお話に成ったのでしょうか。人間として共に協力、助け合いながら生活をしていくには「少欲知足」即ち、欲少なくして足る事を知る必要があるのです。望む事が「我が欲望」のみに走りがちです。煩惱が消え去るように早く修行しないと、先月号で記述した如く、煩惱の達成には処々に犠牲を伴いやすく、争いを呼ぶ事もあり、一種の殺生罪に発展する事にもなりかねません。我々は「共に生きる人間」として清く、正しく、誠道を踏み外す事なく歩んで往きたいものです。

善壽界善入院油掛地藏尊